

私のアイデア貯金箱

日本郵政公社が全国から募集した第30回「私のアイデア貯金箱」コンクールで、椎葉小2年の鈴木菜奈さん（上椎葉下3）の作品が九州ブロックのアイデア賞を受賞しました。11月29日、椎葉小で上椎葉郵便局の椎葉明局長から表彰状と記念品の伝達式が行われました。鈴木さんは夏休みの課題として取り組み、悩んだ末に松ぼっくりなど自然の素材をあしらった力作を完成。同ブロック3166校の中から見事アイデア賞に選ばれ、他の入賞作品とともに熊本県などで展示されました。

「椎葉の秘蜜」広めてください！

養蜂が盛んな本村。健康ブームと本物志向の高まりから、椎葉産蜂蜜は貴重なものとして県内外からの需要も高まっています。今年3月に結成されたプロジェクトH（ハニー）推進協議会（椎葉誠会長 会員20人）では、現在、椎葉村産地蜜の特産品化と伝統養蜂の継承、活性化をめざした取り組みが進められています。このほど、同協議会では公認ラベルを作成し、安心して購入できる地蜜を商品化しました。みなさんも「椎葉の秘蜜」をよろしく願います。

森林の雫「椎葉の自然水」

このほど、大河内地区の自然水が販売され話題を呼んでいます。販売者は椎葉孝一さん（大藪）で、製品名は森林の雫「椎葉の自然水」。椎葉さん所有の山林から湧き出す自然水を熱処理したもので、軟水でまろやかな口あたりが好評です。製品のパッケージには、実際に水を採る場所の写真が使われています。この水は、椎葉さんが子どもの頃から飲んでいたので、ほかの自然水より美味しいと、数年前から企画してきたそうです。販売が許可されるまで、かなり苦労をされたとのことですが、新たな椎葉の特産品として期待されています。

「春の七草」で大忙し

1月7日の「春の七草」に向けて、村内の園芸農家では年末年始を返上して七草（せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ）の栽培と出荷に追われました。椎葉邦利さん（臼杵又）宅では、トルコギキョウの出荷を終えた6アールのビニールハウスで栽培し、約3600パックの出荷を見込んでいます。今年は暖冬の影響で管理が難しかったそうですが、村内16戸の園芸農家から過去最高の約5万8000パックが県内外に出荷される予定です。皆さんも、高品質と評判の高い椎葉の「春の七草」を食べて、今年1年の健康を願いましょう。



▲アイデア賞を受賞した鈴木菜奈さん（椎葉小2年）



▲売り切れ続出の「椎葉の秘蜜」



▲2リットル250円で村物産センター「平家本陣」にて発売中



▲椎葉邦利さん宅の「春の七草」
（写真は奥さんのキヨ子さん）